

☞昨年末より事務局のメールが変更しています。npoinch@yahoo.co.jp に変更しました。よろしくお願ひします。☞

☞ホームページも <http://www.npo-inch.ppmusee.org/index.html> に変更しています。☞

NPO 法人 自然文化誌研究会 会報

ナマステ 153号

2024年3月20日

# ナマステ



特定非営利活動法人  
自然文化誌研究会 会報誌

## 153号

2024年3月20日発行号

## 第20回通常総会を開催しました！！

昨年に引き続きオンラインでの開催となりました。総会の報告についてはホームページに掲載しますので閲覧が可能です。

### <2024年主催事業の予定>

日付	事業名	開催場所	定員	備考
4/21 (日)	野草のてんぷらとお茶つみの会	東京学芸大学環境教育研究センター (農園)	なし	※最終ページに案内あります。
5/3-5	冒険学校むらまつりキャンプ	小菅村	25	
8/3-9	こすげ冒険学校	小菅村	25	参加対象：小学3年～中学3年
8月中	タイ環境学習キャンプ	タイ	15	
10/5-6	INCHまつり (ライブ)	小菅村	30	
12/26-28	冒険学校まふゆのキャンプ	小菅村	15	

## 冒険学校『むらまつりキャンプ』 5.3～5.5 (2泊3日) 開催します！！

新緑がまぶしい、多摩川源流の小菅村でキャンプを行います。清流での川遊び、焚き火、山菜採り、テント泊、野外調理、五右衛門風呂など、多くのプログラムを準備しております。今年は「多摩源流まつり」も復活します。ご家族での参加も可能な、ゆったりとしたキャンプですよ～！！



日程：5月3 (金) ～5日 (日) (2泊3日)

場所：小菅村 清水バンガロー (いつものキャンプ場)

対象：子どもだけの場合は小学校3年生以上、  
親子参加の方は幼児もOKです。

宿泊：テント+寝袋が基本になります。

参加費：※奥多摩駅～小菅村間の交通費を含みます。

子ども：会員¥25,000 非会員 27,000円

親子一組：会員¥34,000 非会員 40,000円

※先着順で25人の定員です、お早めどうぞ！！

※これ以外の組み合わせの時は、ご相談ください。

※会員になると、今回から会員料金で参加できます。

※参加希望者は、ハガキ・もしくはE-mailに住  
所・氏名 (ふりがな)・年齢 (学年)・性別・電話番号  
を記入の上、4月26日 (金) までに事務局までお申  
し込みください。

<令和5年度国土緑化推進機構「緑と水の森林ファンド」助成事業です>

# 第 19 期サークルちえのわ活動報告

第 19 期代表 藤井花（東京学芸大学 3 回生）

みなさま、こんにちは。東京学芸大学サークルちえのわです。私たち「サークルちえのわ」は、学芸大学構内の農園にて、地域の子もたちと食農文化体験を行っております。また、サークル員は INCH のキャンプにもスタッフとして参加しています。

今回は、当サークルが開催している「ちえのわ農学校」について、第 19 期の活動報告と第 20 期の活動予定の報告をさせていただきます。

## 【ちえのわ農学校とは】

「サークルちえのわ」は東京学芸大学のサークルであり、メンバーの大学生は教育・自然体験・農体験に興味を持って集まりました。「ちえのわ農学校でしか出来ない体験をしてほしい！」という思いから、「ちえのわ農学校」を地域の子もたちに向けて開催しています。

そんなサークルちえのわは、3つの“わ”を理念として4月から翌年1月まで毎月1回(全10回)の活動を行っています。

\*自然のわ：自然の様々な表情と向き合いながら、「種から胃袋まで」の道のりを五感で感じるきっかけづくりをする。

\*人のわ：農学校だからこそ出来る体験を通じて、子どもたちが仲間やスタッフとのつながりを感じられるきっかけづくりをする。

\*知恵のわ：昔から受け継がれてきた知恵や文化にふれ、身近なものを見つめなおし発見するきっかけづくりをする。

## 【今年度の活動報告】

今年度は昨年度制限されていた食事もできるようになったため活動の幅を広げることができました。特に、ちえのわの活動の中心である畑と田んぼの活動では、基本理念の中にある「種から胃袋まで」を実現するような企画も行うことができました。

畑ではきゅうり、ナス、キャベツ、カブなど、他にもたくさんの野菜を育てました。8月には育てたスイカをみんなで食べました。実は食べられるスイカは2回目に収穫したもので、1回目は白くて食べられないスイカでした。そのため、スイカを半分に切ったときの子どもたちの第一声は「赤い!!」、自然に拍手が起こりました。そして1人目の子が食べて、「甘い!!」とおいしさをかみしめます。失敗を経験したからこそそのおいしさ、感動があったのだと思いました。



12月 間引きの様子



5月 田植えの様子

田んぼでは例年と同じく、みんなで代掻き、田植え、稲刈り、脱穀、もみすり、唐箕を行いました。そして今年度は精米したお米でおにぎりを作り、みんなで食べました。子ども達は何周もおかわりをしに来るくらいおいしかったようです。精米の過程で昔の道具を使ったため、子どもから「昔の人って大変だったんだね」、「お茶碗一杯のお米ってつくるの大変なんだね」などという声が、、体験を通して様々なことを感じてくれているようでした。



そして今年度は、数年ぶりに 1 泊 2 日の農学校を行いました。お泊り農学校だからこそできる、テントで寝る経験やナイトハイクの他、普段はしないヤマメさばきや夕食作りなど様々な活動を行いました。いつもよりゆったりした雰囲気子どもたちの気が済むまで作業する様子や子どもたち同士の関わりが見られました。農学校の終わりには「今日は泊まれないの??」と言う子も、、、2 日間の農学校を楽しんでもらえたようです。



10月 星空観察の様子

## 第 19 期活動内容

日程	4/15	4/29	5/13	6/17	7/15	8/19	9/16	10/22-23 (合宿)	11/18	12/16	1/20
活動内容	開校式、 農園散策、野菜スタンプ	本代掻き	田植え 畝たて こいのぼり作り	かかし作り お茶作り 苗植え	収穫 流しそうめん 箸づくり	すいか割り 収穫 イナゴ捕り つる返し	苗植え 団子づくり 田んぼの台風対策	稲刈り、サツマイモほり、やまめさばき	脱穀・籾すり・唐箕 収穫 農園散策	薬工作 おにぎりづくり 収穫	修了式 草木染め もちつき 収穫

### 【第 19 期の活動を振り返って】

今年度は昨年度の活動に加えて、食事を伴う企画や合宿をすることができました。特に合宿は部員全員が前例を知らない中での挑戦だったので準備に戸惑ってしまうことも多々ありましたが、その分協力していつもとは一味違った、よりのんびりで、より自由な農学校を作ることができたと思います。

田んぼ、畑の活動でも食事ができ、その中でおいしさを共有できたことはとてもよかったです。自分で育てて収穫した野菜を食べたことで苦手だった野菜が好きになった子や、間引き菜など成長途中の野菜を食べてそのおいしさに驚いた子もあり、食事までを経験したからこそ得られたものがあつたように感じました。

最後になりましたが、いつもちえのわの活動を支えてくださっている子どもたち(ちえっこ)の保護者さん、農園および大学の職員さん、INCHの方々、本当にありがとうございます。たくさんの方々のおかげで学生も子どもたち(ちえっこ)も楽しく活動することができています。今後ともサークルちえのわをよろしくお願いいたします。

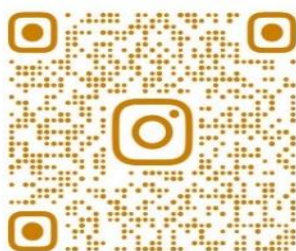


### 【2024 年度の活動予定】 ※2024 年度の申し込み締めきりは 3 月 31 日 (必着) です!!

2024 年度の予定は、月 1 回の土曜日 (全 10 回) 13:00~17:00、6 月は 1 日かけて行う予定です。参加対象は小学校 1 年生~中学校 3 年生、参加費は 15,000 円 (年間講座)、ちえのわ農学校を主催する「サークルちえのわ」に早めにお問い合わせください。4 月 20 日 (土) に開校して、田植えから脱穀・精米までの稲作体験果物の調理・保存自然を対象にしたあそびなど 1 年を通して開催します。 ※日程や活動内容は変更する場合があります。ちえのわはホームページ、Instagram でも活動内容を発信しております。



「サークルちえのわ」HP



@GAKUGEI\_CHIENOWA

ちえのわ Instagram

# タイ・ベトナム環境学習キャンプ2023 報告（後半）

中込貴芳（なかごみきよし）

<今回のキャンプの旅 2023年8月14日～24日>

14日 成田出発 ハノイ経由でバンコクへ グランドビューホテル泊

15日 バンライへ パンダキャンプ近くの民宿泊

16日 ワークショップ（発酵の実験、パネルシアター、  
日本のエッセンシャルオイルについて） 民宿泊

17日 Tham Than Pod National Park(鍾乳洞観察) コテージ泊

18日 国立公園よりバンライへ タイマッサージ 民宿泊

19日 バンライからバンコクへ グランドビューホテル泊

20日 バンコクからハノイ Bendecir Hotel & Spa 泊

21日 LOD（派遣会社の日本語学校）訪問 Bendecir Hotel & Spa 泊

22日 ハロン湾観光ツアー Bendecir Hotel & Spa 泊

23日 ホーチミン廟、ホーチミン博物館、水上人形劇 深夜成田へ

24日 朝成田着



<ホーチミン博物館にて>

20日、タイに別れを告げてベトナムに向かう。タイで電車に乗って自力でスワンブーム空港に向かうのは、いつもタイの先生方に送ってもらっていたので初めてだ。空港には難なくついたが、タイに行き始めた頃に比べれば、当然のことながらタイも随分便利になったものだと思う。

ハノイ行きのベトジェットのチェックインカウンターでは、地元の乗客は何も気にした様子もなく大きな荷物でチェックインしている。LCC なので荷物の超過料金を気にして前日に荷物を分担して詰め替えたがその必要は全くなかった。搭乗手続きは簡単に済んだが、飛行機の到着の遅れで乗り込む前から待たされ、搭乗してからもなかなか出発しない。出発まで飛行機の中で3時間近く待たされ、夕方に着くはずのノイバイ空港に着いた頃にはもうすっかり夜になっていた。その後、タクシーに乗り、ホテルにようやく辿り着たのは10時近くになっていた。後で知ったが、待たされ原因はノイバイ空港の豪雨だったらしい。

翌日は、LOD という友人が勤める派遣会社が経営する語学学校を訪問する。朝食を食べたあと、ホテルでタクシーを手配してもらい学校に向かう。着いたところは大きな門があるビルで、ちょっと普通の学校とは違う雰囲気がある。それもそのはずで、ここは3ヶ月あまり日本語や日本でのマナーなどをしっかり学習し、日本の企業に技能実習生として働きに行く人材を養成している全寮制の学校というか教育施設だ。学んでいる学生はすでに日本の企業との面接を済ませ

派遣される場所が決まっているという。

タクシーから降り、門番の人に訪問の目的を分かってもらおうとしたが、全く日本語も英語も通じない。困っているところに、たまたまバイクでやって来た人が友人に取り次いでくれて、ようやく中に入ることができた。その後、友人の生活している学校内にある職員寮に行き、時間も昼近くになっていたので、一旦、付近の散策をかねて昼食をとり外に出た。学校の周りは、ベトナムの庶民が暮らす街でそこを歩いて、友人がよく行くという店でベトナムのつけ麺BUNを食べサトウキビジュースを飲んだり果物を買ったりしてから学校に戻った。

戻った後は、授業見学と授業参加だ。いくつかのクラスで横山さんはパネルシアターをし、自分たちは、学生たちの日本語の質問に答えたり、質問をしたりして授業に参加した。しっかり、答えられた生徒には日本から持ってきたお土産をプレゼントした。ここで勉強している学生は、日本で働いてお金を稼ぐという目的意識がはっきりしているので学習意欲がとても高く、とても素直で明るく挨拶もしっかりしている。つい自分が教えていた日本の高校生と比較してしまい羨ましいと思う。



語学学校での授業と生徒たち



訪問後は、ホテルに戻り近くにあるホアンキエム湖を散策したりして過ごし、夜は友人とお勧めフエ料理のレストランに夕食を食べに行った。宿泊しているホテルはハノイの中心部にある背の高いこじんまりとした Bendecir Hotel & Spa という名のホテルで、フロントの女性が日本語は話さないが綺麗な英語でとても親切で笑顔で接してくれて、フレンドリーなとても雰囲気の良いホテルだ。屋上が朝食会場になっていてバイキングの種類も豊富でとても美味しい。



フエ両料理の店にて



ハロン湾の鍾乳洞

翌日の22日は、1日のハロン湾クルーズに参加する。朝、ホテルに迎えに来たバスに乗り込みハロン湾を目指す。バスの中ではガイドが一生涯懸命何やら熱心に説明しているが、英語が独特のアクセントでよく聞き取れない。ハロン湾はハノイからは少し離れているが、湾の中に島が点在する景勝地だ。このツアーは昼食付きで、島に上陸して泳いだり、山上まで登ったり、鍾乳洞を巡ったり、カヌーを体験したりできる盛り沢山のツアーだ。最後は、サンセットクルーズになって船上で夕日を見ながらツアーを楽しんだ。遅くにホテルに着いたので開いている店が少なかったため、お勧めの場所をフロントに聞くと、ドアボーイ親切に、よく庶民が行くような行きつけのおすすめの店にわざわざその場所まで案内してくれた。ベトナムのホテルはとても居心地がいい。



ハロン湾の眺め

23日は、帰国する日。帰りの便が、深夜なのでハノイで一日過ごす時間がある。やはり、ベトナムに来たからには、ベトナム統一の英雄ホーチミンの廟に行かねばならない。ホーチミン廟は、見学時間が午前中に限られていて注意が必要だ。カメラなどの荷物を預けなければいけないなど制限も厳しい。ホーチミンの遺体は廟の中に静かに眠っていた。その後、ホーチミ

ン博物館を見学し、ホーチミンの家に行こうとタクシーに乗ったが、そこで騙された。タクシーはホーチミン廟のある公園をほぼ一周して乗った場所の近くに止まりここがホーチミンの家だという。その間に料金を細工がしてあるらしくどんどん上がっていき、ホテルからホーチミン廟までの料金の何十倍の料金を請求されてしまった。ハノイのタクシーは、要注意という予備知識は持っていたもののまんまと騙されてしまったわけだ。もう路上駐車しているタクシーは信用できない。それからどうやってホテルまで帰ろうか思案したところ、一番信用できる場所はホテルのフロントだと考え、近くのホテルを見つけてそこで車を呼んでもらい宿泊しているホテルに戻ることができた。ハノイではライドシェアが確立していて、ホテルではアプリを使って近くを走っている車と交渉し予め料金決めてリーズナブル料金で目的地まで行くことができ、こちらの方が断然安全だ。



ハロン湾でのカヌー体験



バインミーを食べる

ホテルに帰った後は、近くで、一度は食べなければいけないと言われていたフランスパンのサンドイッチ、バインミーを食べ、自分はそのホテルでゆっくりマッサージをしてもらい、夕方みんなで有名な水上人形劇を観て過ごし帰国の途に着いた。



水上人形劇

久しぶりのタイは古くからの友人との再会を喜び、その発展ぶりに驚き、初めてのベトナムは、とても親しみやすい場所であると感じた。 (完)

## 宮本茶園 宮本透

昨年末の出来事でした。その日は相模湖・ダム建設殉職者合同追悼会実行委員会の忘年会で、アミーユの橋本さんと会場に向かいました。橋本さんは歩くのが早く、私は離されないよう必死に後を追いましたが15m程の距離が開きました。国道20号の横断歩道で橋本さんが待ってくれると期待しましたが、私の事など全く気にかけずに信号ボタンを押すのです。この信号は再び青になるまで時間がかかるので、一緒に渡ろうと全力疾走しました。横断歩道を渡り切って追いついたのですが、息が切れて歩く事が出来なくなりました。

正月明けの上野原市立病院受診日、主治医の先生に「お変わりありませんか？」と尋ねられました。「おかげ様で元気に野良仕事しています。気になると言えば・・・」と忘年会での出来事を伝えました。先生の顔が厳しくなり「それはよくありませんね。狭心症の疑いがあるので精密検査をしましょう」と言われます。40歳頃仕事のストレスから狭心症を患い3年程治療を受けた事がありますが、完治したと思っていたので驚きました。先日久し振りに街へ出向いて、東海大学医学部付属八王子病院で精密検査を受けました。医者通いと服薬がめっきり増えた今日この頃、体をいたわりながら野良仕事を楽しまたいものです。

### ・冬の茶仕事

県農協茶業センターから足柄茶生産農家に配布される「茶園管理ごよみ」は3月～11月の病害虫防除・整枝・施肥の実施時期・作業内容が詳しく記載されていますが、12月～2月の作業については触れていません。一般的に冬の茶仕事はお休みと思われがちですが、茶農家は寒空の下で土作りに励みます。宮本茶園では秋から続けていた大豆殻の畝間敷き込みを正月明けに終わらせ、落葉や茅場のススキを茶園に運んでいます。上岩茶園の西側は傾斜地の草原で、ススキの穂が寒風になびいています。地主さんの許可を得て刈り取り茶園に敷き込みましたが、これをご縁に今秋は茅場に使用させていただく事を期待しています。今年の冬は雪がよく降りました。一面銀世界の茶畑景観は素敵ですが、雪が溶けた後は積雪の重みで枝が沈み株表面は穴凹だらけです。毎日黙々と沈んだ枝を起こしては株表面を整え、併せて葉層下の小枝に絡んだ古葉や枯れた茎を根気よく取り除いています。

2月1日に南足柄市文化会館で第56回茶業振興大会が開催されました。茶園共進会の褒賞授与式の結果ですが大洞茶園は3等賞でした。2022年夏から私が管理を担い1月より貸借権を設定した茶園ですが、まだまだ努力が足りないようです。古田島農林高校で足柄茶の授業をしていた頃に生徒たちと茶摘みをさせていただいた開成町の米茶茶園は2等賞、茶品評会でも上位入賞しています。苗の植え付けをしている時期から知る米茶茶園の素晴らしい成績は20年間丹精込めた茶園管理の賜物でしょう。茶来未が製品加工を手掛ける米茶開成営農組合の快晴茶と藤野茶業部の佐野川茶、切磋琢磨しあう関係を築きたいと思いました。研修会では静岡県立大学の中村順行先生が「このままでは足柄茶はなくなる～生き残り戦略は～」という刺激的なテーマで講演されました。中山間地域に点在する足柄茶産地はどこも農家の高齢化と後継者不足が深刻な問題となっています。先生は様々な取り組みを提言してくださいましたが、藤野茶業部が実践してきた活動と重なる事例が多くあって励みになりました。



### ・ちーむゴエモンの活動（2024年 醤油仕込み・醤油搾り・味噌仕込み）

ちーむゴエモンで醤油仕込みに取り組むグループが多くなり、昨年末に各グループ代表がヤギ苑に集まって麴室使用の日程調整会議が開かれました。1月～3月のヤギ苑は毎週どこかのチームが醤油麴仕込みを行う過密日程で、佐野川チームは1月18日～21日が割り振られました。私にとって5回目の醤油麴仕込み、これまでは高橋・高村両師匠に頼り切りだったので今年は出来る限り一人で作業をこなすよう心掛けました。15日から小麦の焙煎や軍刀利神社の名水汲みと準備を進め、当日を迎えました。浸漬大豆を蒸煮したところで両師匠の手助け、引き込み作業を指導してもらいました。3日間の品温管理と2回の手入れは何とか自力でこなし4日目の出麴で再び手助け、上岩に塩切麴を搬送してはっちゃんと醪の手入れを続けています。佐野川チームの醤油仕込み・搾りが無事終了、23日よりゴエモン味噌の麴仕込みです。ゴエモンLINEグループに味噌麴仕込み日程を伝え参加者を募ったところ、元佐野川チームの尾崎



さんが参加してくれました。2020年初めて玄米麴を仕込んだ時、一緒に作業した心強い仲間です。16kgの玄米を麴に仕込み、今年もゴエモン仲間に味噌作りを楽しんでもらいました。野良仕事に追われる私にとって冬季の醤油・味噌麴仕込みはかけがえのない趣味、満喫しました！

2月28日長野県より岩崎先生がお越しくださり醤油搾り講習会が開催されました。秦野や茅ヶ崎からの参加者もあり、醤油作りを趣味にする同好の士が各地からヤギ苑に集まりました。講義では道具の由来や使い方を丁寧に解説していただきました。「普段何気なく使っている柄杓・桶・樽等、用途によって形状や材質が異なる製品が多いので使う目的に合わせて道具を購入しなさい。自分が使いやすい道具を入手するには製造者に対して消費者ではなく利用者の関係になる事が大切です」と話されます。実習では醪の溶き方・濾袋や槽の使い方等、理にかなった無駄がない作業のコツを教えていただきました。昼食は高橋師の奥様と尾崎さんが用意してくださり、搾りたて生醤油と手作り味噌をお土産にいただきました。研修成果を実践する来年の醤油搾り、今から楽しみです！



### ・冬の雑穀畑・花卉畑

雑穀街道普及会が閉会解散したので上岩雑穀畑を訪ねる方はほとんどありませんが、1月28日自給農耕ゼミ(佐野川)に参加された皆さんが麦踏みをしてくださいました。作業後は干木良のヤギ苑に出向いて醤油麴・味噌麴の仕込み工程を見学しました。「種から胃袋まで」農耕文化基本複合を实践するちーむゴエモン活動、皆さん興味を持たれたようです。野良仕事ではご近所から剪定枝をいただき、雑穀畑に運んで燃やしています。のんびり焚火をしながら2年間の雑穀栽培講習会を振り返りました。毎月一回上岩で街に住む皆さんに播種・除草・収穫等の作業体験していただいた事はとても重要な活動でした。しかし1反の雑穀畑は月1回数時間の作業ではとても管理できません。夏の草刈り・秋に収穫した作物の調整作業・冬の土作りと、様々な仕事があります。どれも本来楽しい野良仕事なのですが、無理がたたり2022年秋には体調を崩し私一人で担う事は正直言って負担でした。今後は雑穀普及活動を担うXさんに雑穀栽培講習会の企画・運営を託し、私は野良仕事に専念したいと思います。

花卉畑でも剪定枝を運んで燃やし、木灰をすき込んで土作りをしています。2020年から続ける相模湖・ダム建設殉職者合同追悼会の会場飾花・献花用の花卉栽培ですが、昨年は体調不良で播種が遅れ十分な数の生花を用意する事が出来ませんでした。今年はきちんと準備ができるだろうかと後ろ向きの思考になっていたのですが、1月下旬群馬県高崎市の県立公園「群馬の森」にある朝鮮人労働者追悼碑が県の行政代執行によって破壊・撤去されるという衝撃的な出来事がありました。YouTubeの動画には集まった市民を罵る右翼や抗議行動を弾圧する機動隊が映し出され、怒りがこみ上げてきます。折しもゴエモン文庫にあった「教育と愛国」(岩波書店)を読んだ直後で、社会科教科書の歴史改ざん問題・大阪府での「日の丸・君が代」強制の実態等、学校現場への理不尽な政治圧力をこのニュースに重ね合わせました。日本の犯したアジア侵略戦争の歴史を学び朝鮮半島より強制連行された戦時徴用工の過酷な体験を直接聞いた者として、相模湖・ダム建設殉職者合同追悼会の大切さを再確認しました。歴史の真実をねじ曲げる人たちと闘う手段として、花卉栽培を続けなければいけないと心に誓いました。



※佐野川での雑穀栽培に興味のある方は宮本透(みやもととおる)

携帯：090-2205-8476 e-mail：kwangjuu1980@yahoo.co.jp へご連絡ください。

## 3度目のアイラ島へ（その4）佐伯 順弘（岐阜県）

Travel planning 2017

DAY5 19<sup>th</sup> AUG ILY★DAY6 20<sup>th</sup> AUG ILY★

DAY5 (19AUG2017) ILY

1330 頃、ラフロイグ蒸留所到着。



蒸留所のビジターセンターの入り口を通ると、そこは売店とレセプションである。以前にも訪問したことがあるので、その辺りは見覚えがあるが、少しずつ改装を重ねているらしく、奥の方にバーラウンジができていた。とりあえず、研究のためバーで新種（新酒ではない。）を探して飲むとしよう。ラフロイグはビーム サントリーが保有する蒸留所なので、日本にも多く輸入されているが、やはり現地で新製品を飲みたいものだ。ちなみに、ビーム サントリーはアメリカの蒸留酒生産者でサントリーホールディングスの子会社、つまりサントリーの傘下である。どこの所有であっても、伝統を守って味わいのあるウィスキーを作ってくれるのであればなんでもいい。誠実に作ってくれる作り手に対し尊敬の念しかない。

だからこそ、この「命の水」を、単なる投資・転売・コレクションとしか見られない昨今の風潮は大変残念だ。15年くらい前には、いわゆるスナックとか、お姉さんが隣に座るお店ではカウンターの後ろに、「山崎」がずらりと並び、目の前で

10倍希釈されたウィスキー風味の液体になっていた。酒を味わうのが目的ではないので、その行動に文句はつけられない。極薄の水割りにされ、飲み残された拳勺、捨てられるのに、少しずつ高値で取引されるようになっていった。更には、飲みもしないのに投資だ、転売だ、コレクションだと、そういったことに目の色を変える風潮が高まっていく。飲み物に対する価値ではない。金銭や所有に対する欲望の度合いを反映しているだけの価格。いくら味わい深くてもそんな高いものに嗜好品としての価値はない。もちろん、他人がどのように酒を飲もうが、扱おうが口をはさむ筋合いはない。せめてもったいない飲み方はしてほしくないと思うのは単なる個人の感想だ。ま、どうでもいいことだが、「旨いウィスキーが気軽に楽しめなくなったことが残念だ。」というようなことを、ラフロイグ蒸留所のバーを前に0.02秒ほど考えた。

いろいろ迷ったが、New Products（新製品）とあった「CAIRDEAS」（カーディス：ゲール語で友情を表す）を飲む。やや強く感じたが、好みの味である。ゲール語を学ぶ機会はほとんどないが、以前勤めていた小学校のALTがなんとスコットランド出身で、スコッチウィスキーの話からゲール語の話になったことを思い出した。地名で残っているが、ゲール語を学んでいる人はかなり少ないらしく、話せる人も少ないらしいが、それでも伝えられているらしい。研究者も学習者もいなくはないらしいと教えてもらった。ゲール語の学習は進んでいない。





その後、「FOL」（ラフロイグ友の会）の証明書を提示し、土地の賃貸料（こちらが貸す側）として、ウィスキーを一杯いただく。ラフロイグの敷地内に土地を所有していることになっており、それをラフロイグ蒸留所に貸しているのです。その賃貸料を取り立てに訪れたわけである。こういった遊びが楽しい。また、いつか来たいと思わせてくれる。

1404 ラフロイグ蒸留所発

1435 ポートエレンの街に到着する。昔はポートエレンにも蒸留所があった。今でもボトルは市場に出回っているかもしれないが、既に蒸留所はなく、モルト（麦芽）を製造する工場があるだけだ。

1440 Islay Hotel にて休息。ウィスキーを数杯のみ、何時間も歩いたので少し休憩。喉が渴いたのでホテル内のカフェでビールを飲む。（ここで喉が渴いていたのは運動したことが原因の一つであるが、ウィスキーを飲んだことが特に大きな原因であると考えられる。アルコールには強い利尿作用があり、水分が体の外に排出されやすくなる。脱水症状は進むので、当然喉が渴くのである。しかし、ビールを飲んだ場合、アルコールだけでなく、カリウム・水分の相乗効果による利尿作用で摂取したビール摂取量の 1.1 倍の水分が失われるという。すなわち、脱水症状が現れたときにビールを飲むのはあまりにも愚かである。わかっている、やっているのだから他人にコメントは無用である。）



ビールを飲みながら、旅日記を書く。この時間に旅の間に考察したことなども記録しておく。旅日記の半分は旅の記録というより、旅の間に思いついた考察の記録である。小学生の頃は作文が嫌いで仕方なかったのだが、高校生の頃、文章を書くことに目覚めて以来、かなり書くことが好きに

なった。その後、ワープロ及びワープロソフトの出現によって、さらに書きやすくなる。大学の時に何時間もかけてプログラムを打ち込むという修行を経て、初期チャット文化にも触れていたもので、タイピング速度が向上した。更に文章を書くことに対するハードルは下がった。ただし、スマホ時代を長い間拒絶していたので、フリック入力はおそらく小学生にも負けるだろう。

1620 様々な文章を書き記し、次は生協に向かう。なぜスコットランドに生協があるのか。イギリスにも生協があるなんて不思議だなあなどと寝ぼけたことをおっしゃってはいけない。そもそも生活協同組合、略して生協、コープは英語で consumers' co-operative という。19 世紀に英国の実業家が、工場内に売店などを設けた「理想工場」をスコットランドのニューラナークに設立したことが始まりだ。その生協でサンドイッチと水、それから絵葉書を買う。



海に面したベンチで、潮風に吹かれながら、サンドイッチを食す。美しく整えられた芝生の上のベンチ、目の前には入り江。夏なのに暑くもなく、寒くもなく、まさに快適。いやあ、いい時間だ。旅人感出てるよね。いい感じですよ。いやあ、オレってイケてるなあなどとあまりにもお粗末なことを考えつつ、気分よく、昼食とおやつを兼ねた養分摂取を行う。

1635 バス乗車。ポートエレンからボウモアへ。1700 ボウモアホテル着。シャワー、少し眠る。1807 夕食に向かう。まずは、牡蠣を注文。8 月は英語のスペルに「R」が付く月ではないので食べないと言われるが、スコットランドは寒いし、9 月からはシーズンに入る。それに、現に食べている人も多いのでおそらく大丈夫だろう。



もはや世界の常識になった感があるが、牡蠣にはスコッチウィスキーをかけて食べる。ここボウモアではもちろん「ボウモア 12 年」である。旅先で牡蠣というのはリスクがあるが、今のところ全勝である。次の皿は Fish Cake である。魚ケーキ？なんだそりゃ？ということで、挑戦した。



なるほど、魚コロッケといったところか。想定外においしくて、今回の挑戦は大正解だ。そして、お決まりの大量のポテトチップスを完食した。その後、バーに移動して、サッカー観戦をしながらビールを飲み、隣に座った年長の男性とコミュニケーションを取りつつ、時間を過ごした。部屋に戻って、シャワーを浴びたら、すぐさま眠りに落ちた。

## DAY6 (20AUG2017)

0844 昨日の活動及び暴飲暴食のリカバリーのため、ゆっくり起きたので、朝食はこの時間だ。腹具合も問題なく、食欲も旺盛だ。ありがたいことにスコティッシュブレックファストは今日も大盛である。



部屋に戻り、旅の記録を書くなどしてのんびり過ごす。今日のミッションはボウモア蒸留所訪問だが、今日は日曜日なので正午からしか見学できないことは調べ済みだ。したがって、とことんのんびりである。旅日記を書く、十分な休息をとる。この2つは自分の旅では特に大切にしていることだ。疲れていては感性が鈍る。そんな状態では何をしても意味がない。さらに体調を崩す元となる。一人旅は十分な安全確保が大切である。(時には牡蠣を食べるなどという危険も冒すが、冒険探検部は危険を冒す探検部なので仕方ない。)

1115 ホテル出発。今日もおきまりの曇り空。雲量8程度なのでぎりぎり晴れの判断だ。8月20日と言えば、日本では残暑が厳しい時期だが、スコットランドでは日が射していなければ上着の1枚でも欲しいほどの寒さになる。ボウモア蒸留所までは歩いて5分程度だが、バス停の前の生協で水を買おうと早めに出た。ポートエリンにもあったが、ボウモアにも生協はある。きっと、まだあるに違いない。水を買って、蒸留所に向かうとまだ30分も時間がある。そりゃそうだ。水を買うのにそんなに時間がかかるわけではないし、ホテルから蒸留所まで5分程度しかかからないのに、その途中に生協があるからだ。ボウモアの海を眺めながら、見学可能時間が来るのを待つ。入り口付近に見学客が集まり始めた。

1200 すぎ、施設の入り口が開いた。すぐ中に入り、ツアーの予約をした。それほど待つこともなく、ツアーが始まった。今、フロアモルティングをしている状態だった。自分の蒸留所でモルトを製造する場合とモルトを他から取り寄せる場合があるが、ボウモアは自家生産である。





このコンクリートの床に広げられた麦は既に発芽し「麦芽」となっている。これをスコットランドの大地から掘り出したピート（泥炭）を燃やして乾燥させ、発芽を止める。その時の煙がいわゆるピーティーな芳香、ピート臭になる。



その後、木製の糖化槽や巨大な蒸留器、蒸留されたばかりの透明な原酒が出てくるところを見学し、整然と樽が並ぶ保管庫を巡り、海が見えるバーでのテイastingをしてツアーは終了解散となった。

もう少し味わいたかったので、バーカウンターへ席を移動し、別料金で飲み比べセットである「The Stillmen's Selection」を注文。

それぞれの違いを確認しながら、研究し、楽しむ。この味わいを表現する言葉を知らないのが残念だ。気付くと、至福の時間は終わっていた。ここでもう1セットなどという愚かな飲み方はしないのだ。気になるセットもまだあったが、また来ればいいだけのことだ。



幸せな経験に感謝しつつ、ボウモア蒸留所を後にする。ホテルに戻り、シャワーを浴びたのち、少し寝る。いい感じで寝られるアルコールの量だったようだ。

1800 夕食へ向かう。まずビール。日曜日の夕食はサンデーロースト一択。家庭では父親が肉を調理して、みんなで食べるという。レストランでもほぼそれである。出されているメニューも

「Sunday BBQ menu」となっている。今回は若干高いがミックスで注文した。スコットランドと言えば、アングス牛。これは外せない。さらに、羊。これも捨てがたいと思っていたら、豚と鶏を加えたミックスを発見。それにする。



控えめにいって、大変おいしい。ソースも絶妙。なにより素材がいい。それぞれの肉の味わいが深い。誰だよイギリスの飯が・・・(以下省略)。味のストライクゾーンは特別に広いとは思わないが世界にはおいしいものがたくさんある。今回の食事でも満足して、部屋に戻った。

(旅はつづく。)

# 『INCHの楽しい仲間たち』 vol.13

## 台湾妄想旅行現実 ver 姉妹旅行記 森岡小晴・万釉

### 妹・森岡万釉「初海外旅行記—感想を添えて」

#### <1日目>

##### 「夜市」

台湾行きの飛行機内がレインボー🌈に光っていて新鮮だった。

空港には、「温泉＝健康的幸福 40度」と書かれた温泉のポスターなど様々な看板があり、意味がなんとなく分かるから面白い。

道路でバイク競争みたいに信号待ちしていて迫力があつた。(写真：1)

夜市のフルーツ飴は日本より値段が安く買いやすかつた。

お祭りにあるような射的や輪投げなどの屋台が数多くあり、日本だとあまり客がいないイメージお客さんも賑わっていた。これを毎日していると思うと不思議な感覚になる。(写真：2)

台湾初日に食べた豆花(写真：3)とマンゴーかき氷は見た目も味も良くて最高だった。

日本のレトロ店みたいな場所があつて面白い。(写真：4)

胡椒もちちは激アツで、八角の味がした。私はあまり得意ではなかつたが、生地のもちもち感はとても好きだった(肉まんみたい)。

夜市にいる時に、両親とzoomをして、日本にいる両親と台湾にいる姉妹での会話は不思議な感覚で、通信技術は凄いなと感じた。



①



②



③



④

#### <2日目>

駅内にあつたミスドは9割ボンデリングで、すごい種類だつたし全部美味しそつた。台湾では何個買つたら1.2個プレゼントのお店が多く、ミスドもそのひとつだつた。(写真：5)

途中で入つたパン屋では店員さんの1番のおすすめを買つたが、シナモンの味がキツく、私好みではなかつた。見た目は可愛かつた。

2日目も十份でマンゴーを食べた。すごくジューシーで美味しかつた。焼烤雞翅包飯というスパイシーな鳥飯も美味しかつた。

ランタンには、4面に3人でコメントを書き、飛ばしたのが新鮮で楽しかつた。大きくて驚いた。(写真：6)

その後飲んだレモンジュースはさっぱりとした味で美味しかつた。飲み物の量は基本的に全部多いし、飲みこたえ抜群。

オカリナ屋さんに行つて各自オカリナを買つた。大きさも沢山あつて、種類も豊富だつたし、全部可愛かつた。お店の店員さんもすごく気さくな方で、フレンドリーだつた。オカリナをずっと吹いていたが、日本の曲も多くあり、おしゃべりもした。楽しかつた。(写真：5)



九份に着き、存分に千と千尋の世界感に浸かった。(写真：7)  
 万籟の名前の文字デコレーションもしてもらった。(写真：8)  
 この日も夜市に行き、沢山食べた。



豆花や巨大なダージーパイを食べた。ダージーパイは顔2個分の大きさに凄くジューシーだった。



⑤



⑥



⑦



⑧

### <3日目>

宮原眼科に行った。すごい高級感あふれる店内。そこで買ったアイスクリームは値段は高めだが、すごいボリュームでとても美味しかった。味もトッピングも自由に選ぶことができる。台湾に旅行で行った人はみんな食べるべきだと思うくらい。

彩虹春村に行った。ここは不思議な世界観。どこをみてもカラフルな絵に囲まれている。独特で可愛いいろんなイラストがある。

コンビニに入ってチーズまんを買った。マックに行ってさつまいもスティックを買った。両方とも日本にはない商品でとても美味しかった。日本にも売って欲しい。

3日目も夜市に行った。フルーツとタピオカが入っているジュースを買った。さっぱりとしていてすごく美味しい。量の割に値段が安い。

夜市の中で大好きなさつまいもボール。(写真：9) これほんとに美味しくて、また食べたい。ここでさつまいもボールとチャーハンとモダン焼きみたいな物とピーナッツアイスとジャンボおにぎりを買った。中華のお店の看板は、チャーハンが日本語で(ちゃーはそ)になっていて面白かった。これ以外にも日本語の表記は沢山あった。たまに間違えていたのもすごく親しみを感じた。

ジャンボおにぎりは本当に大きくて、中に揚げパンが入っている。不思議なおにぎり。でも中にいろんな具材が入っていて美味しい。目の前で作ってくれるから見ていても面白いし出来立てで激アツだった。

### <4日目>

台湾のスタバに行ってみたかったので私の朝ごはんはスタバのパン。めっちゃ美味しかった。日本よりもパンの種類が豊富。値段は日本のスタバと同じくらい。お姉ちゃんは道で売っていた、台湾クレープ「潤餅(ルンピン)」を買っていた。=台湾の街角でみかける朝ごはん。野菜たっぷり。

その後 101 に行った。インスタ映えスポットが沢山あった。天気にも恵まれ、最高の景色だった。お昼ご飯にチゲ鍋を食べ、タピオカを飲み、中華街のような場所に行き、小籠包を食べた。ここの小籠包はジューシーでめっちゃ美味しい。今日もさつまいもボールを食べた。見た目も可愛い。作り方も面白い。豆花も2人で食べた。最後に明日の朝用のパンを買ってホテルに戻り就寝。

泊まったホテルは私と姉の2段ベットの小さな部屋で、  
 快適に寝られるよう試行錯誤して乗り切った。なんだかんだ楽しかった。  
 毎日色々な観光地に行き、沢山の飯やスイーツを食べて幸せだった。  
 私にとっての初海外。全部が全部楽しかった。



⑨



## 姉・森岡小晴「旅で感じたこと—台湾大好き！」

私はいつも、揺らぎながらも“揺るがないもの”を持つ人間でありたいと思う。そしてそのために、新しい文化や沢山の人の、暮らしに触れる中で、知らなかった価値観を得ることが好きだ。そのためなら、結構フツ軽で視野を広げるための労力は惜しまない。なんて言いながら、ただ今の自分の価値観に自信などなく、新しい世界や考え方から学ぶのが好きなのだ。

台湾に行くきっかけも同様の理由である。大学 2 年の頃、海外への足掛かりとして高校の台湾派遣プログラムに参加したのだが、あいにくその年はコロナで現地に伺うことが叶わなかった。そして、また台湾に行きたいという思いを温め 2 年が過ぎ、5 月の小菅むらまつりキャンプで、佐伯さんから台湾の妄想旅行記を実現させるのはどうかというお誘いを頂いた。このような経緯と佐伯さんのありがたすぎる迅速な計画のもと、教員採用試験など挟みながら、ドタバタと今回の妄想旅行→現実 ver が実現したのである。

4 泊 5 日で私たちは、台北を中心として、九份の街歩きや十份のランタンなど歴史の残る街歩き、101 タワー等の都市部観光、「台湾の原宿」西門で買い物、3 日目には新幹線で台中へ行き、日本時代の建物でアイスを食べたり、カラフルに絵が描かれた軍事基地の跡地を見て回った。また、終始、夜市や道路沿いに出ている屋台、日本にもあるファストフード店の台湾版など、目についた食べ物、お腹の許さない程度に食べまくった。全ての街並みは新鮮で、どこを歩いていても楽しくて、拙い語彙力と出川イングリッシュを現地の方に発動させる緊張感が面白くて、海外のバックパッカーズホステルの狭いけれど意外としっかり睡眠を取ることができた部屋は、大学生の旅として必要十分な QOL を確保することができた（プランして下さった佐伯さんありがとうございました！）。

旅の中身については妹が紹介してくれているので、私を感じた台湾を表すと、「他人という壁がない台湾の人々、屋台が並び、暮らしの色で溢れている街並み」だ。そして、それを象徴しているのが台湾の夜市である。夜市では、屋間はただの道路だった道沿いに、当たり前のように沢山の屋台が出ていて、チャーハンを頬張る学生がいれば、1 人でサクッと夕飯を食べ帰っていく大人、子連れの家族、観光客など沢山の人がいる。色々な人の暮らしの中に屋台があって、それはど

こか、日本の廃れてしまう前の商店街と通ずるものがある気がした。誰が来ても歓迎してくれるような“welcome”というよりはもっと、居ることが特別でないかのような空間で、いきなり初対面の壁を一個取っ払った、定食屋のおばちゃん×（かける）店の数みたいな感じたなと思った。全ての店ではないが、お客と店員という無機質な関係をもう少し超えて、「今日もご飯食べに来たよ」と言いたくなるような、人の温かみと日常に色を添えてくれる気がした。

詳しく話すのは恥ずかしいので割愛するが、私は旅の途中で落とし物をして現地の警官のお世話になった。その時に、温かいほうじ茶を入れ、旅の楽しい思い出や他愛のない雑談に付き合いながら、拙い英語をくみ取り、警察署のネットワークで電話とバイクを走らせ、素早く落とし物を見つけ渡してくれた。それも、とても素敵な笑顔で。親切をする側が、笑顔を向ける義理などないかもしれない。けれど、別れ際まで笑顔が素敵なあの時の方々への感謝とリスペクトは止むに止まないし、そういう人間でありたいと私は思った。

旅を終えて 10 月、私は高校の教育実習の地理総合「生活文化の多様性」の教材として「台湾の文化」を取り上げて授業を行った。自分が実際に見た世界を伝えることは難しかったけれど、生徒にはいつもよりも響いた気がして嬉しかった。授業の中で生徒たちは、「それぞれの国の文化が残るのは、環境的な要因もあるし、その地の人々に愛され伝承されてきたからだと思う」といった感想や、文化の均質化（マクドナルド化）が広がる世界において、「私たちは、他の文化を排除したり受け入れたりするのではなく、知ろうとすることが大事だと思う」といったまとめを行っていた。

日本で震災が起きて、台湾がいち早く支援をしてくれた時、旅の途中で「日本人ですね！」と好意的に話してくれる台湾の方々に出会った時、私は台湾について、日本との歴史における関わり方など文化的背景をあまりに知らなかったことを改めて恥じた。「日本と台湾が交わってきた時代」が、きっと台湾の人々の暮らしや街並みの中にはあって、けれど私たちの中にはあまりないのかもしれない。その温度感の違いに寂しさを感じなくなるよう、私たちは世界についてなにを知るべきなのか、もう少し考えてみたい。





段々と春の到来を感じられる季節になってきました。道端でもフキノトウが顔を出しています。

2月10日のinch総会で植物と人々の博物館(ppmusee)の今後の活動に関する報告・確認事項について合意を得ました。民具、サクヨウ標本、文献、書籍、学会関連資料、個人・団体から引き継いでいる資料などの収藏品については、可能な限り収集・保管・整理を継続することになりました。展示についても整理・再開します。活動や運営に関して一部縮小・保留する部分もありますが、「博物館機能を公的な場所へ移管すること」を目指しながら今後も運営担当者間での協議を続けて行ければと思います。

月1回程度の頻度でメールリストにメルマガを配信しています。新しく送付をご希望の方、今後は希望されない方、それぞれお知らせいただければご対応します。3月11からは開館・作業日を原則月曜日に行う予定です。さくよう標本の選別、民具・書籍の整理(蔵書リストの作成、書籍番号の貼付、閲覧書架の整理など)にご協力頂ける方は、ご連絡いただければ日程調整も可能ですのでぜひご協力ください。

3月末には民族植物学ノート第17号のオンライン発行を予定しています。これまでの掲載記事も植物と人々の博物館Web(<http://www.ppmusee.org/index.html>)上で閲覧できますので、是非アクセス下さい。電子書籍の充実も図っています。今後は、研究員の学びを中心としたセミナー(ハイブリッド開催)などを開催する案も検討されています。

今年、雑穀栽培を始めてみたい方には種子を差し上げています。栽培・加工法をまとめた資料の配布、雑穀畑での実地講習(佐野川)などもありますので、お気軽にお問い合わせ下さい。

## 「ごすげ冒険学校」のご案内!!(募集予定)

小菅村の自然と文化を満喫しながら過ごす6泊7日の長期キャンプです。川遊びでは飛び込んだり、魚がいっぱいいる淵で泳いだり、思う存分に遊び続けよう!!寒くないように焚き火をしながら、お風呂も沸かしておこう。毎晩星を眺めながら眠くなったら寝てしまおう!!一緒に山と村の暮らしを探検する7日間です!

日程:8月3日(土)~8月9日(金)6泊7日

場所:小菅村 清水バンガロー(木下キャンプ場)

→(山梨県北都留郡小菅村5,413番地)

宿泊:テント(一人用で個人就寝)で寝袋

対象:小学校3年生~中学校3年生 25名

指導者・スタッフ:村の人々と東京学芸大学の大学生など

参加費:49,500円

備考:全日程の参加を原則とし、途中からの参加等は不可とします。

申し込み方法(予定):6月21日(金)必着(締め切り厳守になります)に事務局までをお申し込みください。参加者が定員を超えた場合は抽選になります。

※抽選になった場合について:

①参加の可否については6/28日(金)までに郵便orメールで通知します。

②兄弟・姉妹間での参加の交代等は無しとします。



まだ募集開始をしていません。5月の次号でご案内しますのでしばらくお待ちください。

# 『野草の天ぷらとお茶つみの会』

## 4.21 予定(デイキャンプ)

今年はお茶つみをして、その場で野草の天ぷらを揚げて食す予定です。

恒例の「野草の天ぷらとお茶つみの会」のデイキャンプです。普段は「葉っぱ」「雑草」として見落としがちな野草でも食べられるものがたくさんあります。また、自分たちでお茶をつみ、蒸して、揉んで、製茶します。野草の講師は樹木医の岩谷美苗さん、お茶づくりの講師は宮本農園の宮本透さんです。

日時：4月21日(日) 9:30~14:30

場所：東京学芸大学 環境教育研究センター(農場)

対象：どなたでもご参加ください♪

参加費：中学生以下：300円 高校生以上：500円



※帽子、飲み物、昼食をご持参でお願いします

※子どもたちの安全管理に保護者の方をお願いします。

参加希望の方は4月15日までに事務局あてにメールをください(参加者全員の氏名・住所・TEL・年齢を記載)。npo\_inch@yahoo.co.jp 昨年申し込みいただいた方はメールアドレスの変更をお願いします。

### ○ お知らせと今後の予定

・「ちえのわ農学校」の参加者募集については、ちえのわ農学校のホームページをご参照ください。

→3/31が申し込み締め切り日(必着)となります。事前に「サークルちえのわ」に申し込みの要項などをお問い合わせください!!

・佐々木正久さんのYouTube「まー君のナチュラルライフ」では自然文化誌研究会の紹介も行っています。今後もぜひご覧ください、チャンネル登録よろしくをお願いします!!

・樹木医の岩谷美苗さんもYouTubeを開発しています。「樹木医の偏った食生活」です。右のQRコードからぜひご覧ください。



### ○ 自然文化誌研究会 一緒に活動しませんか?

略称INCH(インチ)。冒険・伝承・創造をキーワードに『国際的な視野で人間をとりまく自然と文化を野外において探求する野外環境教育のパイオニア』として、40年以上にわたって活動を続けています。2004年からNPOとして再出発し、活動の中心を山梨県小菅村に移し、子どもを対象とした『冒険学校』や市民を対象とした『のびと講座』『ELF環境学習中堅指導者養成講座(のびと研修会)』などの山村の自然や文化を学ぶ活動を通じて、持続可能な社会を形成していく上で必須である環境学習の実践と農山村の振興を実現させるため、エコミュージアムづくりを行っています。本会の運営は会員の皆様のご協力と、会費で成り立っています。ぜひとも会員の輪を広げていき、納入をお願い致します。本会の趣旨に賛同いただける方なら、どなたでも会員になれます。なお、正会員のみが総会における議決権を持ちます。それ以外の会員は、総会にオブザーバー参加となります。会費は

年額(1~12月)です。また、皆様からのご寄付も募っております。

正会員：10,000円 一般会員：5,000円 学生会員：3,000円

賛助会員(個人・団体)：10,000円 家族会員：6,000円

植物と人々の博物館友の会会員：3,000円

雑穀街道特別会員：1口1,000円から

・成合基金(冒険架検基金)：「成合基金」とご記載してください。

・寄付：「寄付」とご記載してください。

①郵便振替口座：00100-2-665768

口座名：特定非営利活動法人自然文化誌研究会

②ゆうちょ銀行：店名 00八 普通口座

口座番号 9479450

口座名：特定非営利活動法人自然文化誌研究会



ナチュラ 153号

特定非営利活動法人 自然文化誌研究会 会報誌  
<発行日>2024年3月20日  
<編集>自然文化誌研究会 事務局  
<発行> 特定非営利活動法人

### 自然文化誌研究会

The Institute of Natural and Cultural History

<事務局>〒409-0211 山梨県北都留郡小菅村 3337-2

TEL: 090-3334-5328 (事務局 黒澤)

E-mail: npo\_inch@yahoo.co.jp ←変更しています!!

H P: http://www.npo-inch.ppmusee.org/index.html